

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
YIC京都ペット総合専門学校		平成25年3月25日		佐々木 章		〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路塩小路下ル西油小路町27 (電話) 075-371-4040		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人YIC学院		平成19年1月22日		井本 浩二		〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路塩小路下ル西油小路町27 (電話) 075-371-4040		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
商業実務	商業実務専門課程	動物看護科	平成27(2015)年度	-	平成29(2017)年度			
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教える。</p> <p>動物看護科においては、動物病院で必要とされる実践的かつ専門的な技術・知識だけでなく、人と動物の共生社会の実現のために正しい知識と高い倫理観を持つ人材を育成する。さらに、職業人としての使命感を持って、利他の精神で働くことに社会的意義を感じられる人間力を育成することにも注力し、将来動物看護業界の指導的立場やリーダーとなる人材の育成を目的とする。</p>							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	愛玩動物看護師養成所(取得目標資格)愛玩動物看護師、愛玩動物飼養管理士1級・2級、日本損害保険協会 損保代理店試験、一般社団法人日本ペットサービス研究会 アニマルヘルパー講座 ベーシックコース、							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
				90 単位	55 単位	単位	37 単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
192 人	184 人	0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業生数(C)		0 人					
	■就職希望者数(D)		0 人					
	■就職者数(E)		0 人					
	■地元就職者数(F)		0 人					
	■就職率(E/D)		0 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		0 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
			(令和5年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
当該学科のホームページURL	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間				
うち必修授業時数				単位時間				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間				
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数				8 単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				8 単位				
うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位				
うち必修授業時数				8 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				8 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				6 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		7 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		人			
	計				8 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。
- ・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。
- ・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。
- ・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、課外のキャリア特別授業や職業人を招いての講話だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。
- ・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
石田 龍一	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロックトリマー委員会 委員長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	②
佐々木 章	Y I C京都ペット総合専門学校 校長	—	—
大村 忠	Y I C京都ペット総合専門学校 教務課長	—	—
大村 忠	Y I C京都ペット総合専門学校 総合支援課長	—	—
山根 大助	Y I C京都ペット総合専門学校 管理部長	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月22日(水)15:20～16:50

第2回 令和6年11月13日(水)13:30～15:30(予定)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

動物園研修事前学習資料より3年制となり動物飼育研修を実施した。動物看護師の動物園での就職といのも視野に入れるというお話が、農林水産省、環境省の方からもあり、それに先駆けて動物園での飼育研修実施した。今回は神戸動物王国と高知県立動物公園、香川県白鳥動物園で実施。動物園でのSDGsの取り組み事案、動物福祉としての取り組みについて環境のエンリッチメントに取り組む動物園で園内に動物病院が併設された環境の視察および、展示動物の飼育環境について学び、実際に飼育員より飼育体験実習を行った。

また、次年度教育課程では動物看護総合実習Ⅱ・Ⅲについて、今年の1年生ではⅡの方が3時間と1時間多かったです。次の新1年生に関してはⅢの方を1時間分増やす予定。変更理由としては京都府より、実習、特に動物看護師としての実習時間増やしてほしい、現場で活躍できる人増やしてほしいので現場の知識、現場の実践的な実習行ってほしいという意見があった。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める職業実践的な人材像と学校が送り出す人材像とのギャップを埋め、卒業生の質を保証し本校の教育理念を果たすために企業等との連携は必須である。ギャップは社会の変化、技術進歩に学校が追いついていないところにあると考える。企業等との連携により、教職員の教育研修に注力するとともに、企業等による連携授業、業界研究(インターンシップ)等積極的に行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・企業等と協定書を締結し、連携授業として動物病理学、動物感染症学等の授業や、校外(動物病院等)での動物臨床検査学実習等を行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。
- ・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	アニマルサポートオフィス・ミーチョ
動物看護総合実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 ・獣医師・看護師の業務内容を把握する。 ・動物病院の施設見学をし、施設の概況や機能を理解する。 ・動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。 ・学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。 ・学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 	京都市獣医師会に所属する動物病院
動物看護総合実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲において行われる実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。 ・チーム動物医療は獣医師・動物看護師、スタッフ全員が協力して行うチーム医療であることを理解し、良好なコミュニケーションをとる。 ・動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について認識を深める。 	京都市獣医師会に所属する動物病院
動物看護総合実習Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の助言を受けながら動物病院における獣医師との連携を通じ看護計画の展開を修得し、動物看護を遂行できる能力を養う。 ・可能な限り多くの項目について技術を体験学習する。 ・動物病院内における、動物看護師の役割やチーム動物医療の機能、行動について考えることができる。 	京都市獣医師会に所属する動物病院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ・学生・保護者・地域社会(企業)に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、研修等には①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営 についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	WJVF2023 (West Japan Veterinary Forum)	連携企業等:	West Japan Veterinary Forum
期間:	令和4年7月8日(土)	対象:	動物医療従事者
内容:	犬と猫の健康寿命をのばすために		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「学生とのコミュニケーション向上スキル」	連携企業等:	キャリアコンサルタント 産業カウンセラー 村上恵子先生
期間:	令和5年8月22日(火)	対象:	教員
内容:	Z世代の特徴とコミュニケーションの取り方		

研修名:	ハラスメント研修会	連携企業等:	0
期間:	2024年3月22日(木)	対象:	教職員
内容:	事業所におけるハラスメント法整備、学校・事業所におけるハラスメント防止から法人のリスクマネジメントについて事例から学ぶ。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	WJVF2024 (West Japan Veterinary Forum)	連携企業等:	West Japan Veterinary Forum
期間:	令和5年7月 27日(土)・28日(日)	対象:	動物医療従事者
内容:	発作ってなに? 犬でよくみる歯科疾患と猫でよくみる歯科疾患 深く学ぶ乳腺腫瘍 - 犬と猫でどう違う? - 知っておきたい肥満細胞腫 - やっぱり違う犬と猫 -		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ロイロノート研修会	連携企業等:	株式会社LoiLo
期間:	2024年5月14日(火)	対象:	教職員
内容:	京都府、滋賀県の小中高で導入実績のある授業支援クラウド「ICTツール」ロイロノート・スクール」についてオンライン研修を行う。基本的な使い方、実践事例を紹介していただく。また、実際にアカウントへのログインなど操作についても学ぶ。		

研修名:	シラバス・コマシラバスの作成について	連携企業等:	本校主催
期間:	2024年8月23日(金)	対象:	教員
内容:	学校の規定に基づくシラバスおよび授業計画としてのコマシラバスの作成について次年度の担当科目について実践的にその作成について学ぶ。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2) 学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3) 教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4) 学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8) 財務	9 財務
(9) 法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10) 社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

課題：3-1と3-2、についてコロナ禍の影響により当初の到達レベルに達していない、自宅学習時間が確保できていない状況がある。学習習慣の見直しのため、自宅学習の機会を与えるとともに、当初の到達レベルを達成するためにも各科目における自宅学習課題を検討する。

3-5、3-12、3-14、3-15の評価を3とした。また、3-17動物看護師資格にもっとも重要なインターンシップについて、依頼先の獣医師等と十分なコミュニケーションをとり、その内容、評価法などを事前に決めていくについては4としているが、動物看護師資格に最も重要なインターンシップについて十分とは言えない。

3-8のシラバスなどでできているが、ペットも看護もシラバスはあってもコマシラバスの作成が不十分。

3-1、3-2学習習慣の見直しについて、新入生に対して昨年10月には募集が終了しているので、学校に入学するまでに学習課題に取り組むや、基礎学力を維持するなど入学後の実力テストの評価なども踏まえ、学生指導の勉強会などを行いながら指導している。秋に行う委員会でその取り組みを報告したい。

〈2023年度第1回学校関係者評価委員会より〉

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
石田 龍一	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界団体
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界団体
西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロックトリマー委員会 委員長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界団体
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界企業
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容（提供する情報の項目例）全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、カリキュラム
(3) 教職員	教員数、学校組織一覧、
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6) 学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設置
(7) 学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8) 学校の財務	財務報告
(9) 学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 2024年7月31日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			生命倫理・動物福祉	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉（アニマルウェルフェア）について学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	
2	○			動物形態機能学Ⅰ	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1前	60	2	○			○			○	
3	○			動物形態機能学Ⅱ	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1後	60	2	○			○			○	
4	○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	2前	30	1	○			○			○	
5	○			動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	2後	30	1	○			○			○	
6	○			動物栄養学Ⅰ	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	1後	30	1	○			○			○	
7	○			動物栄養学Ⅱ	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	2前	30	1	○			○			○	
8	○			比較動物学	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理方法、実験動物の品種や飼育管理方法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ。	3前	60	2	○			○			○	
9	○			動物看護関連法規	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。	3後	15	1	○			○			○	
10	○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	3後	15	1	○			○			○	
11	○			動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1後	30	1	○			○			○	

12	○		動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2前	30	1	○					○				○
13	○		動物薬理学Ⅰ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	2後	30	1	○					○				○
14	○		動物薬理学Ⅱ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	3前	30	1	○					○				○
15	○		動物感染症学Ⅰ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。 感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	2前	30	1	○					○				○
16	○		動物感染症学Ⅱ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。 感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	2後	30	1	○					○				○
17	○		動物感染症学Ⅲ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。 感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	3前	30	1	○					○				○
18	○		公衆衛生学Ⅰ	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1前	30	1	○					○				○
19	○		公衆衛生学Ⅱ	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1後	30	1	○					○				○
20	○		動物内科看護学Ⅰ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	1前	30	1	○					○				○
21	○		動物内科看護学Ⅱ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	1後	60	2	○					○				○
22	○		動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。	2前	60	2	○					○				○
23	○		動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	2前	30	1	○					○				○

35	○		動物形態機能学 実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1 前	30	1				○	○						○	
36	○		動物内科看護学 実習Ⅰ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 前	60	2				○	○						○	
37	○		動物内科看護学 実習Ⅱ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 後	60	2				○	○						○	
38	○		動物臨床検査学 実習	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 前	60	2				○	○						○	
39	○		動物外科看護学 実習Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	30	1				○	○						○	
40	○		動物外科看護学 実習Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 前	60	2				○	○						○	
41	○		動物臨床看護学 実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 後	60	2				○	○						○	
42	○		動物愛護・適正 飼養実習	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	3 後	60	2				○	○						○	
43	○		動物看護総合実 習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 ・獣医師・看護師の業務内容を把握する。 ・動物病院の施設見学をし、施設の概況や機能を理解する。 ・動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。 ・学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。 ・学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 	1 後	30	1				○		○	○				○	
44	○		動物看護総合実 習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲において行われる実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。 ・チーム動物医療は獣医師・動物看護師、スタッフ全員が協力して行うチーム医療であることを理解し、良好なコミュニケーションをとる。 ・動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について認識を深める。 	1 後	60	2				○		○	○					○

45	○		動物看護総合実習Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の助言を受けながら動物病院における獣医師との連携を通じ看護計画の展開を修得し、動物看護を遂行できる能力を養う。 ・可能な限り多くの項目について技術を体験学習する。 ・動物病院内における、動物看護師の役割やチーム動物医療の機能、行動について考えることができる。 	2前	90	3				○		○	○		○		
46	○		動物飼育実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・伴侶動物学Ⅰ学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。 	1後	30	1	○				○		○				
47	○		動物飼育実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。 	2前	60	2	○				○		○				
48	○		動物飼育実習Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。 	3後	30	1	○				○		○				
49	○		ドッグトレーニング実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・犬の基本的扱いを習得し、適正飼養ができるようにしつけに関する事項を飼い主に説明・指導ができるようになる。 	2前	30	1					○	○				○	
50	○		ドッグトレーニング実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・犬の基本的扱いを習得した上で活用し、適正飼養ができるようにしつけに関する事項を飼い主に説明・指導ができるようになる。 	3後	30	1					○	○				○	
51	○		トータルケア実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。 	2後	90	3	○					○				○	
52	○		トータルケア実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。 	3前	90	3					○	○				○	
53	○		愛玩動物看護師試験対策Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。 	3前	30	1					○	○				○	
54	○		愛玩動物看護師試験対策Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。 	3後	60	2	○					○				○	
55	○		キャリアデザインⅠ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。 	1前	30	1	○					○					○
56	○		キャリアデザインⅡ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。 	2前	30	1	○					○					○
57	○		キャリアデザインⅢ	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動において実践的に活用できる内容を学ぶことができる。 	3前	30	1	○					○		○			

58	○		ボランティア活動Ⅰ	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。	1後	30	1	○			○	○		
59	○		ボランティア活動Ⅱ	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。	2前	30	1	○			○	○		
60	○		損害保険学	ペット保険及び損害保険募集人に関連する内容を覚える。 アニコム損害保険の合格レベル、知識を覚える。	1前	15	1	○			○	○		
61	○		基本IT技術Ⅰ	パワーポイントを使用したスライド作成	2後	60	2				○	○		○
62	○		基本IT技術Ⅱ	コンピュータを利用した事務作業やビジネスに必要な文書の作成や表計算について学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。	3前	30	1				○	○		○
63	○		イベントプロデュース	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	1前	15	1	○			○	○		
64	○		社会常識	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。文書読解・作成能力検定3級合格のために必要な知識の習得。	2前	30	1	○			○	○		
65	○		ビジネス文章力Ⅰ	硬筆検定4級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。	1前	30	1	○			○	○		
66	○		コミュニケーション学	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。サービス接客検定合格のために必要な知識の習得。	1後	30	1	○			○	○		
67	○		プレゼンテーション学	社会人に必要なプレゼンテーション能力。 この授業ではビジネスにおけるプレゼンテーションの考え方や心理学的、実践的なプレゼンテーションテクニックを学び、動物看護師としてその知識・技術を活用できるようになることを目標とする。	2後	30	1	○			○	○		
68	○		環境整備	環境整備による職場への効果を知識として学び、クラス内を職場と見立てたうえで具体的な行動指針を策定し環境整備を実践する。	1前	30	1	○			○	○		
69		○	アニマルヘルパー	独立開業を目指す場合やトリマー、、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテルなどの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。	2前	30	1	○	△		○			○
70		○	ビジネス文章力Ⅱ	硬筆検定3級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。	3後	30	1	○			○			○
合計					70	科目	93 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 必修科目1,140時間（38単位）及び選択必修科目870時間（29単位）計2,010時間（67単位）以上の履修	1学年の学期区分	2期
履修方法： 単位と時間の関係は 講義は15～30時間/単位（自宅学習を含む）のもの、実習は30～45時間/単位のものに分かれる ・科目履修（単位）認定の要件： 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上を基本とするが、科目により実技試験、あるいはレポートに換える場合もある	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。